

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4472600776		
法人名	特定非営利活動法人 養老会		
事業所名	グループホーム「養老の泉」		
所在地	大分県豊後大野市大野町大原1260番地		
自己評価作成日	平成21年10月7日	評価結果市町村受理日	平成22年3月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・ いつも笑顔でいる。 ・ その人らしさを大切に、利用者中心のケア ・ やさしい言葉かけ ・ 話をよく聴く。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	平成22年4月 公表予定
----------	--------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 第三者評価機構		
所在地	大分市大字羽屋21番1の212 チュリス古国府壱番館1F		
訪問調査日	平成21年12月10日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

山岳の自然を望む国道沿いの小高い所に、昭和初期の趣を有するたたずまいの旧家があります。庭には、四季の花々が楽しめるプランターと椅子が設置され戸外でのひと時を過ごせる空間が存在し、改造されたホーム内は、居室の中心に居間・食堂・台所が配置され、利用者の集いの場となる居間では大型画面を見ながらカラオケを満喫している姿が伺えました。施設長のこだわりである「健康は食から」の信念に基づき、家庭菜園で収穫された有機野菜と、大豆たんぱくや魚等をメインに厳選された旬の食材を取り入れる仕組みが整っています。また、昼夜を問わない医療機関との連携も充実しており、利用者や家族の意向を大切にしながら安全で安心なケアに取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を摺んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど摺んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念には「地域とともに」という一文が入っているが、新しい職員とは、理念の共有ができていない。	理念を具体化した「今年度の目標」を掲げ実践を目指しています。地域密着型のサービスについて全職員の共有の理解を図る為に、管理者は理念の本質について個々の職員への声を掛け等の配慮を大切にしています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の運動会を見に行ったり、夏祭りは地域の行事に合わせて行い、一緒に楽しんでいる。	地区行事への参加やホーム行事・ボランティア(お寺の傾聴・保育園発表等)による来訪者の受け入れにより、地域との触れ合いを楽しめる活動が行われています。また、おすそ分けによる相互関係も保たれています。	自治会等との積極的な情報交換の営みによる、より幅広い地域の方々との日常的な相互交流に期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	福祉ボランティア専門研修講座を開いている。職員も参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ほぼ2ヶ月に1回、会議を開いている。外部からの意見はあまり聞かえてこない。	会議では、ホームの現状・課題や評価結果の報告等が行われています。会議録は玄関に設置されており、会議内容は職員に伝達されています。会議での活発な討議の意義深さと、地域との連携の必要性を心得ています。	理念の実現に向け、会議のメンバーが主軸となる活発な意見発信と、より積極的な参画に期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	何か問題があれば、直接、市役所介護保険課の担当者へ連絡し、相談している。	市職員担当者とは、必要に応じて主に電話での連絡が行われています。法人としては交流関係にあります。	ホームへの訪問活動の機会を設ける中で、利用者の暮らしぶりやニーズ等の現状の把握が現実となります。積極的な連携に期待が持たれます。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の鍵はかかっていない。自由に出て行く方がいるが、あえて止めない。	全職員が「身体と精神の自由について」理解しており、利用者の癖やサインの共有が図られる中、拘束の無い支援と言葉遣い等の気配りにチームとして取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的な虐待はもちろんのこと、心理的虐待にも注意を払っている。時々でる暴力的な言葉は職員の心の声(ストレス)として受け止め、一旦は受け止めているが、プロとしての自分の立場を考えるように話して行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	講師を招き勉強会をした。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約時に、時間をとって説明している。料金、損害賠償、終末期についての話は、具体的にしているようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「ここにおいてよかった。」という意見はいただいたが、不満や要望はなかなか出てこない。	目安箱の設置、外部の公的機関が明文化されています。意見はホーム全体のレベル向上の糧という見識のもとで、支援に取り組む体制作りが行われています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議や部署の会議を開き、話あっている。	会議での提案や個々の職員の日常的な関わりの中での気づき・アイデアを大切に捉えながら、職員の意向を運営に取り入れる体制が整っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今年の介護労働者処遇改善事業と取り入れ、10月から、介護職員の給料の水準を上げた。経営者も、できるだけ現場に出向き、現状を把握するようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修には多くのスタッフに行ってもらっている。施設内でも、勉強会や、新人研修の実施を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年の7月に市内3事業所で、職員交換研修を行った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日々の会話にて、利用者の不安なこと、困っていることを記録して支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の方と、利用者本人のこれまでの習慣や、日常生活の様子を伺うことで、信頼関係を築いていっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今までのサービスの状況等を聞き、要望などを聞いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念にあるように、利用者と共に、泣き、笑い、の生活をしている。職員全員ができているとはいえない。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に見えた家族とできるだけ話をし、本人に対する家族の思いを聞くようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの美容室から、利用を断られた利用者がある。一方、ずっと利用している、近所の理容店の方は優しく対応してくれるので、なじみの関係ができています。	今までの馴染みの間柄との継続的な音信を大切にしながら、地域の協力者との交遊にも努めています。チームでの支援を基盤に、担当職員とのより親密な心のスキンシップ(安らぎ・安心)にも取り組んでいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の会話が多い。職員の中に入り、一緒に会話している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなった後も、家族会の会長さんを任期いっぱい引き受けてくれたり、理事になって支えてくれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの言葉や表情から、思いをくみ取り、把握するよう努めているが、どこまで把握できているかは疑問。	利用者の言葉や表情を受け止める目を大切に捉えながら、希望する思い・意向等の把握に努めています。また、一人ひとりの暮らしに寄り添える支援を目指して、管理者は自問自答を重ねている様子が伺えます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人から聞き取る、それができない方は、家族や知人から聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	把握できていると思う。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御家族からの希望を聞いている。アセスメント、モニタリングは計画作成担当者が主にしており、職員も含めて出来ていない。月に1回の会議で、ケース会議も行っているが、介護計画に結びついていない。	業務日誌やケース記録から職員の意見を拾いながら、家族の意見を反映した計画作りが行われています。今後の課題を設定しており、チームで作成する介護計画への取り組みとして、効率的な記録様式の策定が進められています。	チーム協同での介護計画の策定に向けて、課題である記録様式の改訂に期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事、水分、排泄、ケース記録等いろいろ記録しているが、業務日誌やケース記録の書き方が徹底されていない。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりのニーズとして、ケアプランに取り入れているが、実行するのは今のところ難しい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ほとんどできていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を大切に、入居前のかかりつけ医を受診している方もいる。	以前は町の健診をされていたようですが、今は近くの医師の往診が2週に1回の割合で行なわれているとの事です。夜間でも見てもらう体制が整っており又、家族には同意を得ています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師には、こまめに気づきを伝えている。また、看護師もよく対応してくれ、うまく行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中のダメージを軽減するために、できるだけ早く退院するようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族にこまめに連絡を取り、医師と事業所と家族の三者で話し合っている。	状況に応じその都度医師、家族、事業所間での話し合いがもたれ連携がとれており又、事業所内においても職員間で共有でき支援に取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に一度は勉強会をしているが、いざという時、できるかは自信がない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に一度、避難訓練を実施している。運営推進会議当で協力をお願いしている。	年に1回の避難訓練を実施しており、全職員も周知しています。避難場所、備蓄品等の確保は出来ており、地域との協力も整えていく取り組みをされています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライドを傷つけない言葉かけやさりげない支援を心がけている。	利用者の方には慣れ親しんだ名前でお呼びしており、個人の人格を尊重し又、自尊心を傷つけないような言葉遣いや対応を心がけている様子が伺えます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望をできるだけかなえている。言えない人には、選択肢を出し自己決定してもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴時間や食事おやつ時間は決まっているが、そのほかの時間は一人ひとりのペースでその人らしく楽しく過ごしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	なかなか自分の好み表現できないので、その人らしい装いができるように支援している。 清潔さを心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は、利用者と同じテーブルで同じ食事を食べている。 楽しい雰囲気づくりを心がけている。 朝食時、配膳を手伝ってもらう。	職員と利用者がお互い見つめ合いながら、楽しい雰囲気の中で会話を交え食事をされています。配膳、お茶いれ等利用者の方が自ら行っている様子が見受けられました。	勤務体制等で一緒に食事を作る事が困難のようですが、少しずつでも一緒に行い利用者の出来る能力を発揮させ、喜びへとつなげていける工夫を期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分量はチェック表に記入している。嚥下の悪い方にはとろみをつけている。 お茶をあまり飲まない方にはコーヒーを入れてあげることもある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず一人ひとりに口腔ケアをしている。できる人には声かけをし、確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、トイレへの声かけ誘導を行っている。紙パンツ・パット使用者には、汚染確認をしている。	排泄チェック表を活用し、個別の対応ができています。常に声かけをしており、不快な思いをさせないように職員間でも取り組んでおられます。又、プライバシーの配慮にも常に心掛けています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日体操をして体を動かしている。 水分をこまめ取るように声かけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午前中が入浴時間になっている。 一人ひとりゆっくり時間を取り、入浴を楽しんで楽しんでもらっている。	その方の体調、要望(時間、入浴の仕方)等に合わせ対応されています。安全面にも十分配慮されており、安心して入浴できるよう支援している様子が伺えます。利用者の方の嬉しい声も聞こえてきました。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	皆さんよく眠られている。 時々、眠れない方がいるが、お茶を勧めたり、話を聴いたりして、安心して眠れるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	「薬説明書」というファイルを作っている。誤薬のないように、一人ひとり確認しながら服薬支援をしている。 服薬チェック表に記入している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎朝、門扉開けと、新聞取りをお願いしている。 体操、歌レク、風船バレー、ドライブ、買い物等を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	歩ける人は、ドライブに良く行く。車椅子の方も、時々出かける。 お花見、もみじ狩り、地区の運動会、地域のお祭り等に出かける。	季節ごとの行事に伴い戸外への外出の支援に取り組まれています又、家族等の支援もあるようで、外出の機会を作るよう努めておられます。	利用者の気分転換の為、1日1回の戸外への支援ができるような取り組みを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	今まで、あまり機会がなかったが、一人ひとりの出納簿を作ったので、外出時に本人が好きに使えるように支援していきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話をかけている。年賀状を本人の名前で出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関に四季の花を生けたり、季節ごとにディスプレイを替えている。	共有の場では、利用者方の交流があり職員の方も雰囲気作りに努めている様子が伺えます。又、施設内の環境整備も行き届いており、利用者の方も居心地よく過ごさせてもらっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールに椅子やマッサージ器、ソファを置いてそれぞれ思い思いに過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から愛用の椅子を持ってきている。好きな絵画を持ってきている。家族の写真を飾っている。家族がいつも花を持ってきてくれる。	利用者の以前の生活環境に近づけるような配慮が出来ており、家族の方の心使いも伺えます。又、個人の使い慣れた食器・布団等を活用し、心地よく過ごされています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所がわからない方に居室にPTトイレを置いている。居室に名札を下げている。トイレの大きき「便所」と表記している。		